

特別警報について

※本資料に記載の内容は、変更となる可能性もあります。

平成25年5月24日

気象庁

1

特別警報

警報の発表基準をはるかに超える現象に対して、特別警報を発表します。

特別警報は、「東日本大震災」における津波や、「平成23年台風第12号」による豪雨、「伊勢湾台風」による高潮のような、警報の発表基準をはるかに超える異常な現象が予想され、重大な災害が起こるおそれが著しく大きい場合に発表されます。

特別警報が発表されたら、身を守るために最善を尽くしてください。

- 経験したことのないような激しい豪雨や暴風など異常な気象現象が起きそうな状況です。ただちに命を守る行動をとってください。
- 周囲の状況や市町村から発表される避難勧告等の情報に留意し、ただちに避難所へ避難するか、すでに外出することが危険な状態のときは、無理をせず家の中で比較的安全な場所にとどまってください。
- この数十年間災害の経験がない地域でも、災害の可能性が高まっています。油断しないでください。

「特別警報」が発表されないからといって安心することは禁物です。

- 重大な災害のおそれがあるときは従来どおり警報が発表されます。これまでどおり、最新の情報に注意するなど、警戒してください。
- 大雨等においては、時間を追って段階的に発表される気象情報、注意報、警報を活用して、早め早めの行動をとることが大切です。

2

「特別警報」発表基準案の考え方

特別警報の発表基準は、地域の災害対策の責任者である都道府県知事及び市町村長の意見を聴いて定める。

気象・高潮・波浪に関する特別警報

現象の種類	現在想定している基準案	過去の対象事例	【発表頻度】地域ごとに数十年に一回程度 【発表区域】市町村単位 【発表方法】現行の警報の発表形式において、注意警戒文の冒頭に特別警報である旨とその種別を明示して発表（現行警報の電文形式は変更しない）※別途、喚起電文も配信予定
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	H24.7九州北部豪雨（死者・行方不明者29人） H23台風第12号（死者・行方不明者104人）	（特別警報の発表例） 令和11.3.1 平成×年×月×日×時×分 静岡地方気象台発表 （【特別警報】大雨、暴風、波浪、高潮）静岡県では、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水、暴風、高波、高潮に警戒して下さい。） 静岡市南部 【警報】大雨（土砂災害）、暴風、波浪、高潮 【注意報】雷、洪水 静岡市北部 【警報】大雨（土砂災害）、暴風 【注意報】雷、洪水 ～中略～ 森町 【警報】大雨（土砂災害、浸水害）、洪水、暴風 【注意報】雷=
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 暴風が吹くと予想される場合	S34台風第15号（伊勢湾台風、死者・行方不明者5,000人以上） S09室戸台風（死者・行方不明者3,000人以上）	
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合		
波浪	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高波になると予想される場合		
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	昭和56年豪雪（死者・行方不明者152人） 昭和38年1月豪雪（死者・行方不明者231人）	
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合		

※洪水に係る特別警報は実施せず、引き続き指定河川洪水予報で対応

津波に関する特別警報

【基準案】予想される津波の高さが高いところで3mを超える
【発表頻度】全国的に見て概ね十年前後の間に一回程度
【発表区域】津波予報区（概ね都道府県と同様の区域割）単位
【発表方法】現行の大津波警報を特別警報と位置付ける（基準・電文形式・発表名称は変更しない）

対象事例
H23.3 東北地方太平洋沖地震（16.7m※痕跡高）
H5.7 北海道南西沖地震（29m※遡上高）
S98.5 日本海中部地震（6.6m※遡上高）

(改正法施行前)		(改正法施行後)	
警報	3m以上	特別警報	3m以上
大津波警報	3m以上	特別警報	大津波警報
津波警報	1m以上	警報	津波警報
津波注意報	1m未満	注意報	津波注意報
津波予報	予報	予報	津波予報

火山に関する特別警報

【基準案】居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される
【発表頻度】全国的に見て概ね十年前後の間に一回程度
【発表区域】市町村単位
【発表方法】現行の噴火警戒レベル4以上に相当する噴火警報を特別警報と位置付ける（基準・電文形式・発表名称は変更しない）

対象事例 三宅島(H12)、有珠山(H12)、雲仙岳(H3)

(改正法施行前)		(改正法施行後)	
予報	レベル	予報	レベル
噴火警報(大規模)	5	特別警報	5
噴火警報(中規模)	4	警報	4
噴火警報(小規模)	3	注意報	3
噴火予報	2	予報	2
噴火予報	1	予報	1

※噴火警戒レベルを運用していない火山についても従前の噴火警報（居住地域）を特別警報と位置付ける。

地震動に関する特別警報

【基準案】予想される地震動の大きさが震度6弱以上
【発表頻度】全国的に見て概ね1～2年の間に一回程度
【発表区域】府県予報区および細分区域単位
【発表方法】現行の緊急地震速報(警報)における震度6弱以上を予想したものを特別警報と位置付ける（基準・電文形式・発表名称は変更しない）

対象事例
H23.3 東北地方太平洋沖地震（死者・行方不明者18,000人以上(津波含)）
H20.6 岩手・宮城内陸地震（死者・行方不明者23人）
H19.7 新潟県中越沖地震（死者・行方不明者15人）
H16.10 新潟県中越沖地震（死者・行方不明者88人）
H07.1 兵庫県南部地震（死者・行方不明者6,437人）

(改正法施行前)		(改正法施行後)	
警報	震度6弱以上	特別警報	緊急地震速報(警報)
緊急地震速報(警報)	震度6弱以上	特別警報	緊急地震速報(警報)
緊急地震速報(予報)	震度5弱以上	警報	緊急地震速報(予報)
緊急地震速報(予報)	震度3以上 or M3.5以上	予報	緊急地震速報(予報)

気象等の特別警報が対象とする現象

- ・府県程度以上にわたる広い範囲で、甚大な災害が同時多発的に発生。
- ・都市機能が麻痺、多くの集落が孤立し、復旧に長期間を要する。

- ・国、地方自治体等の防災関係機関は、最大限の防災対応が求められる。
- ・住民は、自らの判断・行動力により、命を守る最善の行動を直ちにとることが求められる。

現象	現在想定している基準案	過去の対象事例
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	平成24年7月九州北部豪雨（死者・行方不明者29人） 平成23年台風第12号（死者・行方不明者104人）
地面現象※		
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	昭和34年伊勢湾台風（死者・行方不明者5,000人以上）
高潮		昭和9年室戸台風（死者・行方不明者3,000人以上）
波浪		
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	—
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	昭和56年豪雪（死者・行方不明者152人） 昭和38年1月豪雪（死者・行方不明者231人）

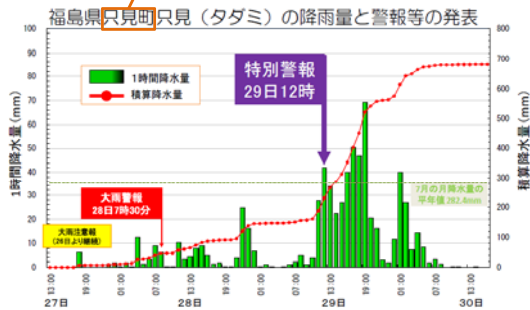
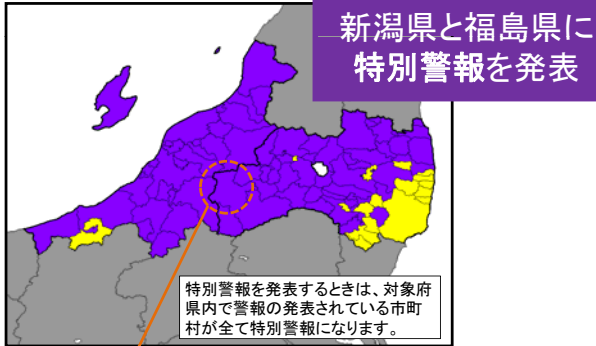
特別警報の発表基準は、地域の災害対策の責任者である都道府県知事及び市町村長の意見を聴いて定める。

※地面現象については、現行の警報と同様、大雨特別警報に含めて「大雨特別警報(土砂災害)」として発表する。

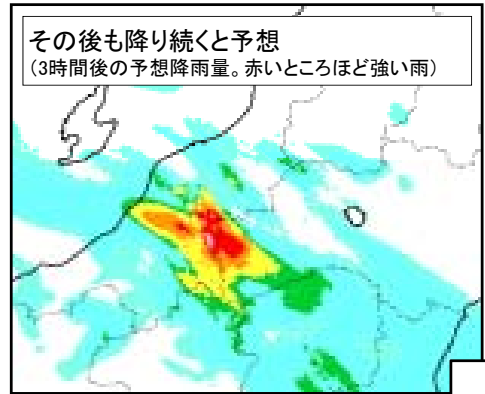
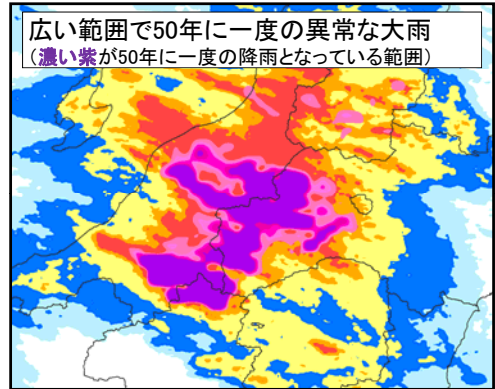
大雨の特別警報

(警報基準をはるかに超える異常な大雨)

数十年に一度の大量の大雨が広がる地域に**大雨特別警報**を発表します。



例:平成23年7月新潟・福島豪雨
(死者・行方不明6人、全半壊1,071棟、床上・床下浸水9,025棟)



(参考)大雨特別警報が発表される主な事例

命名相当※の被害をもたらした多くの事例が対象となります。

(命名相当※: 損壊家屋1,000棟程度以上、浸水家屋10,000棟程度以上)

発生年	月日	現象	死者・行方不明者	住家全半壊	住家浸水(床上+床下)
1993	7/31-8/29	梅雨前線、台風第7・11号(平成5年8月豪雨)	93	950	16,496
1995	6/30-7/22	梅雨前線による大雨	5	211	18,208
1998	8/3-8/7	梅雨前線による大雨(平成10年8月上旬豪雨)	2	19	17,694
2000	9/8-9/17	前線及び台風第14・15・17号	12	206	69,227
2002	7/8-7/12	梅雨前線及び台風第6号	7	50	10,318
2004	7/17-7/18	「平成16年7月福井豪雨」	5	201	13,727
2004	10/18-10/21	前線及び台風第23号	98	8,685	55,455
2006	7/15-7/24	「平成18年7月豪雨」	30	1,539	6,996
2009	8/8-8/11	熱帯低気圧及び台風第9号	27	1,313	5,602
2011	7/27-7/30	「平成23年7月新潟・福島豪雨」	6	1,071	9,025
2011	8/30-9/5	台風第12号	104	3,538	22,094
2011	9/15-9/22	台風第15号	19	1,610	7,840
2012	7/11-7/14	「平成24年7月九州北部豪雨」	29	1,863	12,606

被害数は消防白書からの引用を基本としている。消防白書に記載の無い事例の場合は、気象庁HPや理科年表等、他の出典からの引用。

「伊勢湾台風」級の異常な台風に伴う特別警報(大雨、暴風、高潮、波浪)

「伊勢湾台風」(昭和34年9月)

トップクラスの勢力

上陸時の中心気圧が低い台風

- 1位 室戸台風(中心気圧911.6hPa、昭和9年)
- 2位 枕崎台風(中心気圧916.1hPa、昭和20年)
- 3位 第2室戸台風(中心気圧925hPa、昭和36年)
- 4位 **伊勢湾台風(中心気圧929hPa、昭和34年)**
- 5位 平成5年台風第13号(中心気圧930hPa、平成5年)

立ってられないくらいの猛烈な風

最大風速**45.4m/s**(伊良湖)
最大瞬間風速**55.3m/s**(伊良湖)



4mの高潮、10mの高波

389cm(名古屋港、**観測史上1位**)
熊野灘での最大**波高10m以上**(推定)

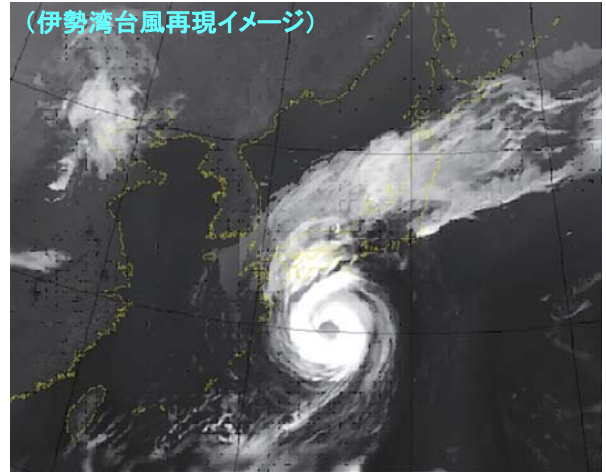
未曾有の被害

死者・行方不明者**5,000人**以上
負傷者**30,000人**以上
全半壊**15万棟**以上
床上浸水**15万棟**以上

高潮等による被害の状況



(伊勢湾台風再現イメージ)



「伊勢湾台風」級の台風が来襲する地域に、**大雨、暴風、高潮、波浪**の**特別警報**を公表します。

台風時の特別警報発表のイメージ

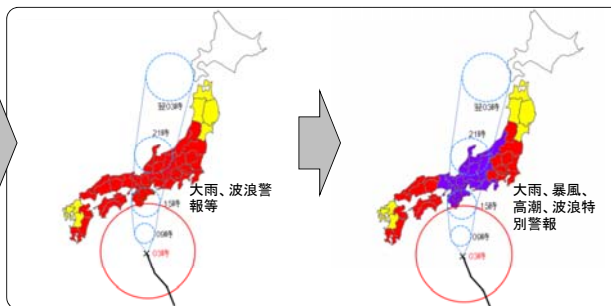


台風上陸24時間前

【〇〇県に接近可能性】
台風が〇〇県に明日以降接近、暴風雨の可能性。

【気象庁記者会見】
本庁・各地気象台で記者会見。**接近時間帯**や**特別警報可能性の言及**に注目。

【詳細は府県気象情報】
気象台からの**府県気象情報**で、**詳細な見通し**などをチェック。

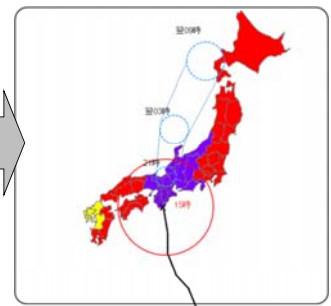


台風上陸6~12時間前

【〇〇県に猛烈な暴風雨必至】
勢力を保ったまま台風が上陸、各地域で猛烈な大雨や暴風が予想される。気象台は**特別警報を公表**。

【気象庁記者会見】
本庁・各地気象台の記者会見での**最大級の警戒呼びかけ**に注目。

【防災対応の徹底】
避難勧告や指示など**対応策の検討・実施**。



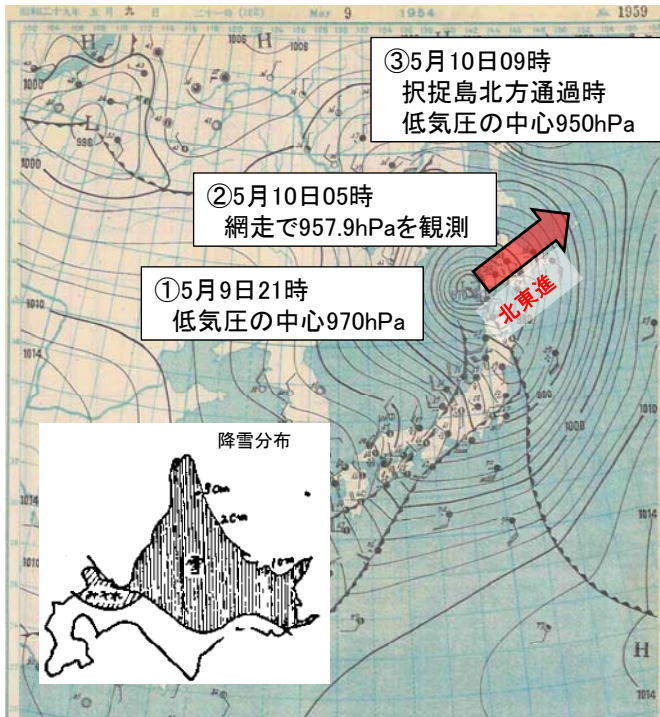
台風上陸以降

【情報の更新】
台風の進行に伴い、**特別警報の切り替え**を公表。併せて**最新の台風予報、府県気象情報**などにも注目。

【状況に応じた対応】
状況の変化や**最新の気象情報**に応じた**的確な防災対応**。

異常に発達する温帯低気圧に伴う特別警報について

特別警報に該当する過去事例は無いが、本事例を超えるような温帯低気圧が対象となる。



昭和29年5月の温帯低気圧

北海道とその近海で**暴風雨・暴風雪**が発生。北日本で**暴風**による被害が大きく、各地で家屋倒壊や農作物被害。また多くの漁船が遭難・沈没。

最低気圧：957.9hPa(網走)
(最終的に950hPaまで発達)
最大風速 35.2m/s(浦河)

北海道の被害(「災害発生記録」(北海道庁)より)

死者26人、行方不明390人、負傷者69人
全壊301棟、半壊474棟
船舶沈没51隻、不明24隻、座礁8隻

温帯低気圧についても、「伊勢湾台風」級が来襲する地域に、**大雨**、**暴風**(雪を伴う場合は**暴風雪**)、**高潮**、**波浪**の**特別警報**を發表します。

9

(参考) 暴風等の特別警報が発表される主な台風事例

「伊勢湾台風」級※が対象となります。

(※中心気圧930hPa、風速50メートル程度)

名称	上陸時 中心気圧	上陸日・上陸場所	被害
室戸台風	911.6hPa	昭和9年9月21日 高知県室戸岬の西	死者・行方不明者3,000人以上 負傷者14,000人以上 住家被害9万棟以上 床上・床下浸水40万棟以上
枕崎台風	916.1hPa	昭和20年9月17日 鹿児島県枕崎市付近	死者・行方不明者3,700人以上 負傷者2,400人以上 住家被害8万棟以上 床上・床下浸水27万棟以上
第2室戸台風	925hPa	昭和36年9月16日 高知県室戸岬の西	死者・行方不明者202人 負傷者4,900人以上 住家被害6万棟以上 床上・床下浸水38万棟以上
伊勢湾台風	929hPa	昭和34年9月26日 和歌山県潮岬の西	死者・行方不明者5,000人以上 負傷者30,000人以上 全半壊15万棟以上 床上浸水15万棟以上
平成5年台風第13号	930hPa	平成5年9月3日 鹿児島県薩摩半島南部	死者・行方不明者48人 負傷者396人 全半壊1,784棟 床上浸水3,770棟

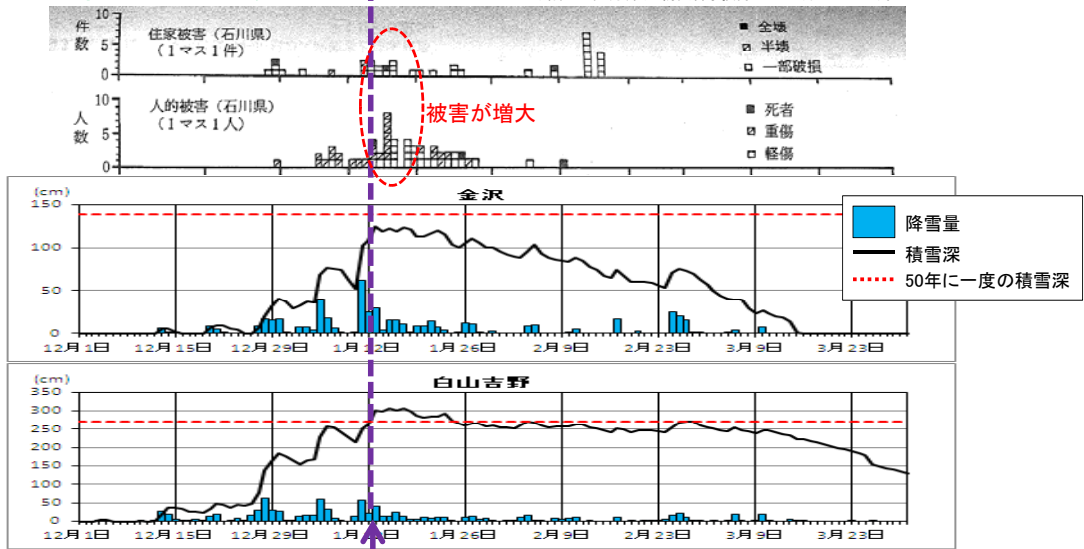
10

大雪の特別警報

数十年に一度の積雪深がある状態でさらにまとまった降雪があると、被害が急激に増大する傾向がある。

昭和56年豪雪における発表例

被害については、「昭和56年豪雪による北陸地方の災害現地調査報告」(昭和57年2月、国立防災科学技術センター)図3.3.10より。



13日特別警報

(参考)大雪特別警報が発表される主な事例

昭和38年1月豪雪	死者・行方不明者 231人 住家全半壊 1,735棟 床上・床下浸水 6,978棟
昭和56年豪雪	死者・行方不明者 152人 住家全半壊 466棟 床上・床下浸水 8,097棟

数十年に一度の積雪深を超え、さらに雪が降り続く地域に、**大雪特別警報**を発表します。

11

気象警報等発表時における市町村や住民の対応例

警報の発表基準をはるかに超える現象に対して「特別警報」を発表します。各市町村においては、例えば下の表のように、避難勧告・指示の判断材料などにご活用ください。

市町村の対応	住民の行動	気象警報等の種類				
		大雨 (土砂災害)	大雨 (浸水害)	暴風	高潮	波浪
<ul style="list-style-type: none"> 担当職員の連絡態勢確立 気象情報や雨量の状況を収集 注意呼びかけ 警戒すべき区域の巡回 警報の住民への周知 避難場所の準備、開設 必要地域に避難準備(要援護者避難)情報 応急対応態勢確立 必要地域に避難勧告・指示 避難の呼びかけ 特別警報が発表され非常に危険な状況であることの住民への周知 直ちに最善を尽くして身を守るよう住民に呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報に気をつける テレビ、ラジオ、気象庁HPなどから最新の気象情報入手 窓や雨戸など家の外の点検 避難場所の確認 非常持出品の点検 避難の準備をする 危険な場所に近づかない 日頃と異なったことがあれば、市役所などへ通報 暴風警報については、安全な場所に退避 早めの自主避難、又は市町村の勧告・指示による避難 直ちに命を守る行動をとる(避難所へ避難するか、外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる) 	大雨 注意報	大雨 注意報	強風 注意報	高潮 注意報	波浪 注意報
		大雨 警報 (土砂災害)	大雨 警報 (浸水害)	暴風 警報	高潮 警報	波浪 警報
		大雨 特別警報 (土砂災害)	大雨 特別警報 (浸水害)	暴風 特別警報	高潮 特別警報	波浪 特別警報

注1)「土砂災害への警戒の呼びかけに関する検討会」報告書(平成24年度、国土交通省砂防部・気象庁)を受けた、砂防部局と気象台が共同で発表する土砂災害に関する警報については、別途、その法的位置づけ等も含めて整理することとしている。
注2)このほか、大雪や暴風雪についても特別警報を創設する予定。なお、洪水については特別警報を創設しないが、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表している。

12

特別警報発表時にとるべき具体的行動の一例

(警報でもとることが望ましい。)

崖の近く、沢の入り口近くにいる場合

市町村から指示がある場合には、指定された避難所に、安全を確認しながら速やかに移動して下さい。
猛烈な雨で道路が歩けないなど、移動に危険を感じる場合、家の中でも崖からできるだけ離れた場所に待避して下さい。2階以上がある場合はできるだけ高いところに移動して下さい。
近くの歩いて移動できる範囲にRC等の頑丈な建物がある場合、その建物に移動して下さい。

川の近くにいる場合

市町村から指示がある場合には、指定された避難所に、安全を確認しながら速やかに移動して下さい。
川から離れた安全な場所に移動して下さい。川を見に行かないで下さい。
猛烈な雨で道路が歩けないなど、移動に危険を感じる場合、近隣を含めて、2階以上のできるだけ高いところに移動して下さい。
近くの歩いて移動できる範囲にRC等の頑丈な建物がある場合、その建物の高い階に移動して下さい。

川から離れた平地や崖のない高台にいる場合

強い雨が降っている場合には、屋内で待機して下さい。テレビやインターネット等で気象情報を集めると共に、市町村からの情報に気をつけ、指示がある場合は従って下さい。

外出している場合

安全が確認できるまで丈夫な建物で待機して下さい。外出先でもテレビやインターネット等で気象情報を集めると共に、市町村からの情報に気をつけ、指示がある場合は従って下さい。

強い雨が降っていない場合

自分の頭の上で強い雨が降っていなくても、近隣で既に記録的な大雨となり災害が発生し続けています。今後大雨の領域が移動し、重大な災害が発生するような大雨になる可能性があります。テレビやインターネット等で気象情報を集めると共に、市町村からの情報に気をつけ、指示がある場合は従って下さい。外出の際は十分安全を確認して下さい。崖の近くや川には近づかないで下さい。

大雨になっている場合は、近所と声を掛け合い、少しでも安全な所に移動し、身を守って下さい。

13

気象庁HP「トップページ」 特別警報発表時の表示イメージ



特別警報が発表されたら、トップページに発表のお知らせ(画像)を掲載します。

画像や表示の文言については、後日変更する可能性があります。

14

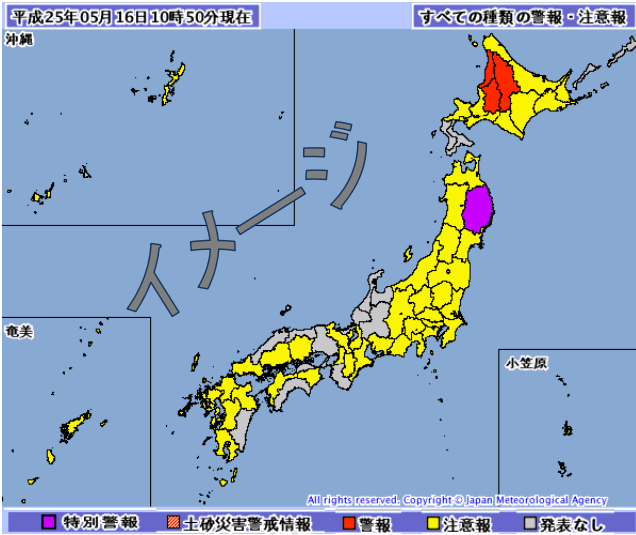
気象庁HP「気象警報・注意報」 気象特別警報の表示イメージ(全国)

気象警報・注意報 その他の情報

警報・注意報種類 すべての種類 印刷

地方 全国 府県 説明へ

気象特別警報発表中



特別警報発表中の府県予報区を紫色で表示します。

※「都道府県ごとの地図表示」は上部の「府県」メニューから選択してください。
地図をクリックすると該当府県の気象警報・注意報の発表状況の一覧表を表示します。

気象庁HP「気象警報・注意報」 気象特別警報の表示イメージ(地方)

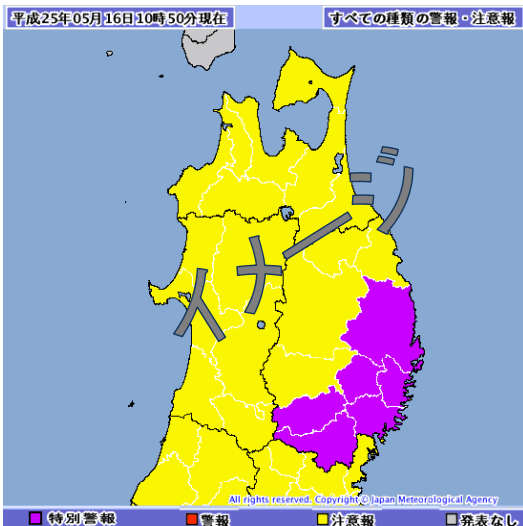
気象警報・注意報：東北地方(北部) その他の情報

警報・注意報種類 すべての種類 印刷

地方 東北地方(北部) 府県 説明へ

気象特別警報発表中

○○県、●●県



特別警報発表中の二次細分区域を含む市町村等をまとめた地域を紫色で表示します。

気象庁HP「気象警報・注意報」 気象特別警報の表示イメージ(府県)

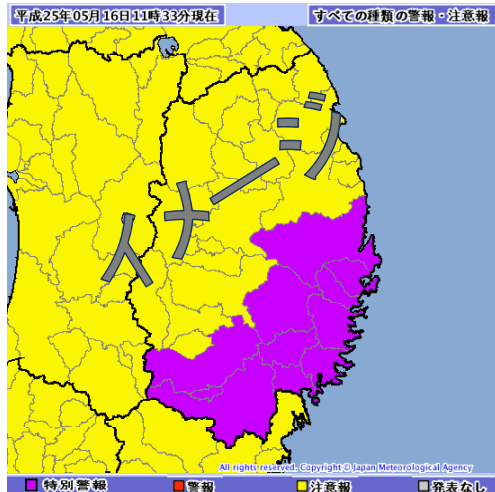
気象警報・注意報：岩手県 その他の情報

警報・注意報の種類 すべての種類

地方 府県 | 岩手県 | 市町村 発表状況

〇〇県で気象特別警報発表中

【特別警報(大雨)】〇〇地方、〇〇地方では、土砂災害に警戒してください。〇〇県では、低い土地の浸水や河川の増水に警戒してください。



特別警報発表中の二次細分区域を紫色で表示します。
また、(特別警報発表中か否かによらず)地図上部に注意警戒文を表示します。

気象庁HP「気象警報・注意報」 気象特別警報の表示イメージ_表形式(府県)

気象警報・注意報：岩手県 その他の情報

地方 府県 | 岩手県 | 市町村 印刷

[気象状況地図](#)

平成25年 2月19日15時30分 現在 説明へ

〇〇県で気象特別警報発表中

【特別警報(大雨)】〇〇地方、〇〇地方では、土砂災害に警戒してください。〇〇県では、低い土地の浸水や河川の増水に警戒してください。

	警報										注意報											
	大雨	洪水	暴風	暴風雪	大雪	波浪	高潮	大雨	洪水	強風	風雪	大雪	波浪	高潮	雷雨	濃霧	乾燥	なだれ	低温	霜	着雪	
内陸	盛岡市																					
	八幡平市																					
	雫石町																					
	葛巻町																					
	岩手町																					
	滝沢村																					
	盛岡市																					
	左辺町																					
	一戸市																					
	軽米町																					
一戸町																						
花巻市																						
北上市																						
西和賀町																						
遠野市																						
奥州市																						
金ケ崎町																						
一関市																						
平泉町																						

特別警報発表中の要素は、背景色を赤色から紫色に変更して表示します。

おわりに

特別警報が発表された時の表示については、
警報や注意報と同様に、利用者に対して誤解なく、
分かり易い表示をよろしくお願いします。